

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：25301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2022

課題番号：15K02808

研究課題名（和文）小学校教員養成課程における「外国語活動」指導力育成カリキュラムの開発

研究課題名（英文）Developing a Primary School Teacher Training Curriculum for Fostering Student Teachers' English Skills

研究代表者

風早 由佳（Kazahaya, Yuka）

岡山県立大学・デザイン学部・准教授

研究者番号：20633043

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：「平成26年度開発"実践で鍛える英語力育成カリキュラム"の実施・検討計画」に基づき、外国語活動の講義、現場での実践授業を配置した。同じ学期に講義と実践を並行して行っていた前年度までと比較し、知識習得の時間を増加させたH27年度は語彙力・表現力が大きく伸びていることがわかった。特にクラスルーム・イングリッシュに関する語彙の習得が伸びた。複数回模擬授業を行ったことで、実践力が高められたことも示された。また、アンケート調査の結果は、教員養成課程学生向け教材作成に反映し、冊子配布、web上での公開を行った。また、これらの成果として学術論文「幼児英語教育の実践研究II」、研究発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

平成26年に策定した英語カリキュラムは、教員養成課程1年次から外国語活動の実習経験を積むことによって英語力・実践力を育成することをねらいとしている。1年次からの段階的实践経験により、外国語活動のための「コミュニケーション力」を養うカリキュラムは、全国の先行事例にも見られない先駆的取組である。本研究において作成した実践の評価基準（ループリック）を元に、学生へのフィードバック、及び面談を行うことで、学生の自発的学びと実践力の強化を目指した。また、本研究において地域の学校と大学が連携することで、学生の実践力、コミュニケーション力を高めつつ、研究に基づいた実践を行うサイクルを実現できる。

研究成果の概要（英文）：Based on the "Implementation and Examination Plan for an English Proficiency Training Curriculum Developed in 2014", lectures on foreign language activities and practical classes at some elementary schools were arranged. Compared to the previous year, when lectures and practical lessons were held in parallel during the same semester, the vocabulary and expressive ability of the students in the H27 school year, in which time for knowledge acquisition was increased, showed a significant progress. In particular, the acquisition of vocabulary related to classroom English improved. The results also indicated that the students' practical skills were enhanced by conducting multiple mock classes. The results of the questionnaire survey were reflected in the development of teaching materials for teacher training students, which were distributed in booklets and made available on the web.

研究分野：英語教育

キーワード：小学校英語 教員養成課程 カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

小学校での積極的な「外国語活動*」(*研究開始当初の名称。令和5年現在の名称は「英語」)の取組とは対照的に、小学校教員養成課程を設置する大学では、小学校「外国語活動」のための英語教育体制が整備されているとは言い難い状況であった。大学英語教育学会の調査(2009)によれば、小学校の「外国語活動」に特化した科目が設置されている大学は38%であった。その後増加しつつあるものの、小学校英語教育に特化した指導を行うための大学側の人材不足、制度上の問題から、小学校での外国語活動の取り組みに対応できるほどの教員養成が行われていなかった。各大学で小学校教員に必要な資質能力を身につける「教員養成スタンダード」の策定が試みられているが、「外国語活動」分野においては十分な実践に基づく検証は行われておらず、大学における具体的な英語教育内容についてはさらなる検討が急務であった。

2. 研究の目的

平成23年に小学校「外国語活動」が導入され、各地で様々な取り組みがなされる一方で、小学校教員養成課程を設置する大学の英語教育体制は、未だ十分には整備されていない。本研究では、平成26年に開発した「外国語活動」のための英語実習を導入した「実践で鍛える英語力育成カリキュラム」の実施、及び実践の評価方法・基準の検証を行い、小学校教員養成課程における英語教育カリキュラムの開発を行うことを目的とする。本カリキュラムは、教員養成課程の学生が連携小学校、地域等での英語実習を通して小学校教員に必要な英語力を養うと共に、大学が地域における知の拠点として情報発信の機能を発揮することをねらいとする。

3. 研究の方法

平成26年度に開発した「実践で鍛える英語力育成カリキュラム」に従って実践に取り組む。カリキュラムは6ヶ月毎にPDCAサイクルに基づき進行状況を把握し、調整する。

平成27年度は大学1、2年次生を対象とし、前期中は外国語活動に関する基礎知識の修得、後期は実践に取り組む。なお、実習先は主に大学附属園、近隣の提携先小学校で行うこととした。実習実施後はCan-Doリストを用いた評価と録画記録、学生のポートフォリオを分析することで課題発見、改善に取り組む。2年次生は、1年次の授業形態を基本的には維持しつつ、子どもの発達段階や遊びと言語の関係、第二言語修得理論など1年次と比較してより幅広いテーマを扱う。

新たに開講する主な科目は1年次対象「児童英語に関する基礎知識1」と2年次対象「児童英語に関する基礎知識2」である。「児童英語に関する基礎知識1」においては、児童英語の基礎的知識、音声学入門、言語学入門、子どもの歌と遊び、クラスルームイングリッシュ等を扱う。「児童英語に関する基礎知識2」においては、第二言語習得理論、子どもの発達段階と言語習得、音声学入門2、子どもの歌、遊び、文学作品、チームティーチング、クラスルームイングリッシュ2等を扱う。

また、1年次、2年次それぞれの後期に実践を導入するが、1年次には授業内模擬授業を複数回実施した後に附属園の見学と実践を行い、2年次の授業内模擬授業においてはチームティーチングを取り入れ、近隣小学校においても単独授業、チームティーチング授業を各1回ずつ行うこととし、段階的に実習内容が高度化するようカリキュラム設定を行った。

平成28年度以降は、平成26年度から導入しているe-learningの取組成果の分析、「外国語活動」のための教材開発を進める。また、研究協力校の教諭からの助言や児童へのアンケート結果を元に教材やテーマの設定、使用する英語表現を精査することとした。

最終年度前年までに4年次生が4年間のカリキュラムを通じて外国語活動を指導できる英語力を修得しているか評価する指標の検討と、試験的評価を行う。研究期間最終年度において、実施成果に基づき、カリキュラムと評価基準を修正し、小学校教員養成課程における英語教育カリキュラムモデルを完成させる。

さらに、最終年度までに授業、学校生活において必要となるクラスルームイングリッシュの選定を行い、小学校教諭、幼稚園教諭からの助言を得つつ、学級担任が英語で授業を行う際に参考となるクラスルームイングリッシュ冊子を作成し、教育現場へ配布を行う。同時に、ウェブ版も作成し、スマートフォン等でも気軽にアクセスできる状態とする他、語彙については反復学習が可能な学習機能も付加する。

4. 研究成果

大学附属幼稚園、及び近隣小学校における教員養成課程学生の実習の導入方法についての研究成果をまとめた論文を執筆した。

【論文】

- ・風早由佳「幼児英語教育の実践研究 II 幼・小接続を見据えた英語カリキュラム開発」くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学研究紀要, 48(1), 20151225
- ・風早由佳、「早期英語教育におけるナーサリータイムを導入した英語活動の実践研究」*JAILA JOURNAL*, 第 7 号 53-63, 202103

【口頭発表】

- ・風早由佳「小学校教員養成課程における英語カリキュラム開発 地域での英語実習で実践力をのばす」, *JAILA* 第 6 回全国大会, 20170218

【研究成果冊子】

- ・Classroom English 毎日の生活で使える英語フレーズ集 1

【ウェブサイト】

- ・クラスルームイングリッシュ学習用サイト“Classroom English”
(冊子“Classroom English”の内容、及び学習機能を付加したウェブサイト)
<https://classroom-english2017.jimdo.com/>
- ・英語授業 Tips 教員用サイト
(クラスルームイングリッシュ以外に、教科の内容を英語で教えるためのアイデア集)
<https://sites.google.com/view/englishscience/home>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 風早由佳	4. 巻 7
2. 論文標題 早期英語教育におけるナーサリーライムを導入した英語活動の実践研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JAILA Journal Volume 7 (2021)	6. 最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉岡由佳	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 幼児英語教育の実践研究II-幼・小接続を見据えた英語カリキュラム開発	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学紀要（ISSN 2189-6755）	6. 最初と最後の頁 1- 17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 風早由佳
2. 発表標題 小学校教員養成課程における英語カリキュラム開発 地域での英語実習で実践力をのばす
3. 学会等名 日本国際教養学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

クラスルームイングリッシュ学習用サイト
"Classroom English"
<https://classroom-english2017.jimdo.com/>

英語授業Tips教員用サイト
<https://sites.google.com/view/englishscience/home>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	西村 美保 (Nishimura Miho)		研究協力時、岡山大学理学部所属
研究協力者	平田 佐智子 (Hirata Sachiko)		研究協力時、明治大学所属

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------